



TITLE:

静脩 Vol. 16 No. 2 (1979.12) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 16 No. 2 (1979.12) [全文]. 静脩 1979, 16(2)

ISSUE DATE:

1979-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65967>

RIGHT:



静脩

1979年12月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 16, No. 2

京都大学附属図書館創立80周年記念式典に際して



京都大学総長 岡 本 道 雄

本学附属図書館は、去る12月11日（火）に創立80周年を迎え、京大会館で記念式典が挙行された。

以下は、式典に際して、岡本道雄総長よりの御挨拶です。

本日、本部附属図書館の創立80周年記念に際し、式典を催しましたところ、文部省の篠沢学術国際局長を始め、近隣諸大学の諸館長、学内教職員多数の御出席を得ましたことは心から私の慶びとするところであります。

只今林館長から申されましたように、本学図書館は、本邦第二番目の大学図書館として明治32年12月11日開館を開始したものでありまして、本学初代木下総長が東京帝国大学教授として図書館管理をかねていた関係上特に本学図書館の創設に対しては、ひとり大学の用のみでなく我が国、西部全体の用に供すべしとの意気込みで立ち向ったものであります。

従ってその後の発展も著しく歴代館長もまたそれぞれ人を得てそれぞれの時代の碩学を迎え、当

初56,555冊の蔵書は4年後36年には40万冊、50周年には100万冊、60周年昭和36年には200万冊、70周年昭和46年には300万冊、現在370万冊を蔵し、この間80年、京都大学における研究者の研究、学生諸君の学習を支え輝かしい成果を挙げて来たことは御承知のとおりであります。この間の文部省を始め関係各位歴代の館長、館員の皆様の御努力に対して、この機会に私から敬意と感謝を捧げるものであります。

当初は単一な大学図書館として出発したわけですが、京都大学の発展に伴い全学の図書活動は漸次各部局ごとの図書館分館活動を伴い、今や極めて大規模な図書館群の活動となっています。これと同時に本附属図書館は学習図書館的なものとして利用されることが多く研究図書館としての機能は部局図書館に移行する傾向はありますが、しかし附属図書館は全京都大学の図書館活動に対して常にその道標として要として機能してきているものであります。この学習図書館としての機能としても年間35万という膨大な学生数を思う時、本図書館において如何に多くの京都大学の学生が勉学につとめたかを思いますとその果している役割の大であることを思うのであります。

しかしこの部局図書館の研究的利用の増大はややすると教官の附属図書館への全学的関心を薄れさせる傾向を招致していることは、注意を要す

るところであります。と申しますのは今や図書館は単に書を蔵するところではなくて広く情報を媒介する機関として図書館機能を果すものであり、このためには強力な中心なくしては各部局の図書館も機能を果たし得ません。さきに発表された日本学術審議会の学術情報システムの在り方についての中間答申にもありますように大学図書館はひとりその大学内において機能するのみでなく、広く学外においても相互に手をたずさえて我が国の学術情報の提供に責任を持つべきものであります。その意味では、京都大学が一丸となって外へ手をさしのべることが必要であり、そのためにはまず学内での調和ある全図書館群の融合が必要です。各部局、各研究者の独自性を尊重しつつ広く京都大学の図書館のトータルなシステムを組むということであります。そのような図書館の機能的変革の秋に当り、本学図書館全体として、この附属図書館に期待すべきところは甚だ大であります。

さきにこのような本学における学術情報問題、殊に機械処理について調査検討をすすめるために学術情報問題調査検討委員会を設けましたのも、このことのために全学的な関心と工夫を喚起する意図に外なりません。何卒かかる委員会の検討を土台として、学内でのネットワークや学外との提携をすすめ図書館活動を通じて京都大学の負う責任を果すことを期待しています。

最後に建物について一言しますと、図書館は学

生諸君のためにも又研究者のためにもその大学の学問的雰囲気を中心として、彼らを研究学習に誘うものでなくてはなりません。読書に疲れその屋上に上ってはそのキャンパスを眺め、その学問的雰囲気にひたり又夕方、又は深夜図書館を後にして帰途につく時、本当に学問をする者の喜びを味わしめるのも学生時代の学問雰囲気の満ちた図書館であります。この点、私が本学に入ってから以来、本学は必ずしも恵まれているとはいえないのであって、昭和11年失火にあいその後15年地鎮祭を行いつつ今次大戦に遭遇し中途のまま放置され、昭和23年戦後窮乏の尚収まらぬ時、ひとまず完成といった経過を辿ったものであって、そのため外観内容共に学問的雰囲気といった様相を持っていません。かつて若い頃留学してみた世界の大学の図書館のたたずまい、又過日英国、仏国を巡って見た現在の図書館の実態と比較しますとこれはまさに本学の一つの大きい不備といわねばなりません。この点各方面の御検討と御工夫を願っているところではありますが、何卒一日も早く新しい附属図書館が建設されることを希うものでありまして関係各位の御理解をお願い申し上げます。かくて名実共に京都大学の研究、学習の原動力として今後共に本学の附属図書館が益々発展し来たる100周年には名実共に本学の学問研究の中核と成っていることを信じ、そのための学内外の御協力をお願いして挨拶と致します。

式

辞

京都大学附属図書館長 林 良 平



本日、京都大学附属図書館の創立80周年の日を迎えるにあたりまして、ここにささやかな記念の式を上げることのできますことは、わたくしどもの心から

喜びとすところであります。学内外の多数の来賓関係者がこのように御参会頂きましたことは、重ね重ね喜びとすところであります。皆様の御厚情に厚く御礼申し上げます。

この機会にわれわれの80年の歩みの一端をふり返り今日おかれています状況について御報告申し上げ、ここに致しますまでの御努力御協力に殊に

謝意を表するとともに御列席の皆様への御挨拶に代えさせて頂きたいと存じます。

本図書館が、わが国第二の国立大学図書館として創設されましたのは明治30年6月18日に京都大学創設と日を同じくします。東京帝国大学・第三高等学校・帝国図書館などから移管されました図書を中心に木下総長みずから館長を兼務してここに本附属図書館はその第一歩を踏み出したわけでございます。

本学附属図書館はその創立当初より研究図書館ならびに学習図書館を兼ね備え、さらに木下総長の意中には西日本に始めての国立の図書館として大学を超える規模の責任をも負うとする気概もみられました。創立当初は全学図書の整理、閲覧の業務を行い全学図書のすべての目録カードは附属図書館に収められました。いわゆる全学総合目録であります。この総合目録は今日にまでおよび370万冊の本学蔵書の目録カードをすべて整理保存し検索に提供しております。しかし整理閲覧の業務は分科大学、後には学部・研究所の拡充に伴い、かなりの部分は各部局に拡散して参り今日直接所蔵する図書は50万であります。しかし各部局での図書業務のモデルは本図書館に殆ど、また今日においても全学図書事務の調整役として附属図書館は全学的規模の役割を果たしております。

研究図書館的機能は、このように各部局に拡散して参りましたが後に申し上げますように各時代に応じて形を多少変形させつつ本図書館においてもつねに重要な機能を営んで参りました。

ひるがえって学習図書館的機能について申しますと3万冊に及ぶ開架図書を中心とする閲覧室に年間に入館し利用する学生諸君の数は延べ35万人に及んでおります。学園紛争中もつねに静粛な学習の場として全学の支持を受け夜間の閲覧のための灯の消えたことはございません。紛争時の立入禁止のため一時、午後7時をもって閉館いたしておりましたが、昨年、本年と相ついで午後8時、午後9時へと延長し閉館ぎりぎりに至りますまで数百名の学生諸君の研鑽の姿は閲覧室を埋めております。

研究図書館的機能に立返って申し上げます。

拡散されて発展を遂げて参ります各部局図書室は、教官の努力を中心とする収書によってわが国、国立大学中で最もすぐれた蔵書を収蔵する大学図書館の一つと数えられる状況であります。しかし学際研究図書や各部局の共通利用に供せられる共通図書、大型で貴重なコレクションは本図書館に収められており、また全学問分野の図書のうち基本図書とも申すべきものは全学教職員学生に部局の所属を離れて平等に利用されよう本図書館でも努めて収書しております。

さらに京都の地の特殊性と申しますか、また創立にあたって西日本の国立図書館的機能をも果そうとしたいきさつから、近代以前の経書の研究やわが国古文学の研究に貴重な文献となるべき図書、巻物、版本などまた尊攘堂とともに寄贈された明治維新の重要資料などをも収めております。このうち168点は重要文化財の指定を受けております。そのかなりの部分は京都の旧家の寄贈によるものであり、ここに改めて御礼申し上げねばならないと存じます。しかしこの方面の研究者のメッカとしての役割も果しており、これらを収集された先輩の御努力は今日も香り高い遺産となっております。

さらに戦後、海外交流が再開されました日には図書館の性質上、当然海外交流の重要な窓口の一つとなりました。欧米諸大学との図書交換やアメリカセンター図書、フラフ（HRAF）所蔵館、国際地球観測年事業の一環として設置された地磁気世界資料室などはその現れであります。

もっとも、この点につきましても海外交流の緊密化とともに、次第に各部局直接の交流にかなりの重点は移りました。しかし本図書館の果たした先駆的役割は銘記すべきものと存じます。さらに近年の研究図書館的役割で注目すべきことは、いわゆる二次資料の充実であります。近年になり商議員各位の熱心な御協力のもとに、その充実がはかられて参りました。おびただしい情報量の増加と研究の学際化の高まりはおのずと文献資料の検索の方法の変革を要求します。これらはいまや全学研究者に共用の必須なツールとなりつつあります。

さて今日の図書館はもはや孤立した図書館一つ一つとして論ずることは無意味となりました。提供され、また要求される情報量が増大するにつれ今日の図書館は情報の収集にも情報の処理にも一つの館だけでは充足することが不可能となりました。

京都大学内部のすべての図書館、図書室の相互協力が必要なだけでなく、学外のすべての図書館との協力が必須のものとなりました。今日図書館をめぐって機械化が重視されて来たのはこれと無関係ではありません。総合目録をデータベース化することや、文献情報について作成されたデータベースを利用して、たがいに検索することによって収書の方にも利用にも相互協力を深める日は遠くないと存じます。

幸い本学では数理解析研究所での全国大学に先がけた図書業務の機械化の歴史をもっており、今日では外国雑誌の受入について、すでに機械処理を実施しておりますが、さらに大型計算機センター、情報処理教育センターの御協力を得て、将来の発展に備えてプログラムの作成、ターミナルのテスト的使用、要員の研修などにも着手しております。

唯今の附属図書館の建物について一言申し上げます。昭和11年不慮の出火によって閲覧室を失った後、仮住いの運営をつづけておりましたが、羽田館長は再建に鋭意努力され、総長に就任されました後も本庄館長とともにその策をすすめ、昭和15年再建築の地鎮祭まで執り行ったのでありますが、残念ながら戦争のため延引し、しかも戦後の窮迫の中で当初計画の半分の規模となって、今日の建物がやっと23年に竣工したのであります。羽田総長は、そのほかにも図書充実のため配慮されるなど、われわれに多くの遺産を残されたことには今日改めて敬意を表する次第であります。今申

し上げたように増大する図書館への要求に応えるには残念ながら、この建物は狭隘かつ機能的に不十分なものとなりました。収蔵する重要な図書の整理拡充、学生諸君の要望にさらに応えたいために、物的予算の手当も焦眉の急をつげております。残念ながらそれらの点については、近年では七旧帝大中必ずしも十分な状態になっておりません。

しかしその乏しさの中で、商議員各位館員諸君の格別の御協力によりなされる厳選された選書や乏しい予算の中で苦心の保存整理、閲覧席千席、開架図書10万を必要とする中をやりくりする学生諸君の協力で、いわば古いしかも使いこまれて輝きを増した家具にも似た状況下で附属図書館は生氣ある運営をつづけております。できればこれにふさわしい物的裏付けをというのがわたくしどもの今日の切実な願いであります。

天平奈良朝時代からヘリオトロン核融合研究に到るまで本学図書は長い歴史の巨大な蓄積の上にあります。これらの図書はこの大学で学び研究するものに未来の無限の思索の展開に資するため提供されています。図書館には、この文化的遺産を収蔵しております。しかし図書は研究者の内的創造性により活用されるべく存在するもので好事家の収集のたのしみのためにあるものではありません。

われわれの図書館は、まさにこの研究学習に資するため、今後も格段の努力をつづけるつもりであります。学内外の皆様のこれまでの御支援に改めて深く謝意を表しますとともに今後の努力を1980年代を目前に控えて人類文化の新たな進展が期待されています。われわれの附属図書館はくしくも1980年に20日早めて本日80年代に突入しました。1980年代を先取りしてわれわれは前進して参りたいと存じます。

京都大学附属図書館創立80周年記念行事 昭和54年12月11日（火）

上記の記念行事が、昭和54年12月11日（火）に次のとおり行われた。

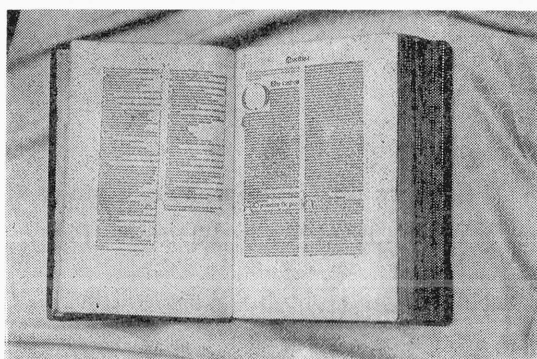
式典	午前11時—正午	京大会館1階講演室
祝宴	正午—午後1時	同2階大会議室
展示会	(11日・12日2日間)	午前10時—午後3時半 附属図書館1階会議室
		展示品 重要文化財を含む貴重書 外国二次資料
図書目録の機械化実験	(11日・12日2日間)	
	午前10時—午後3時半	附属図書館1階端末機操作室

上野文庫1冊のインキュナビュラについて

第2期の上野文庫目録は昨年から今年にかけて3分冊のかたちで刊行された。本文庫の内容一般についてはしばしば紹介されているので、ここでは「一般部門(2-1)」に掲載されている1冊のインキュナビュラにふれてみたい。

Thomas Aquinas: Summa theologiae. Pars 1.
Venetus: Antonium de Strata de Cremona,
1482.

インキュナビュラ Incunabula は、もともと揺り籠を意味するラテン語であるが、書誌学の用語としては『揺籠期本』の文字をあて、1550年代のグーテンベルグによる活字印刷の開始から、その世紀の終りまでの約50年間に出版された活字本を総称させている。本書、聖トマス・アクイナス『神学大全』は上に掲げたように1482年ヴェニスで出版されている。イタリアへの印刷術の導入は1460年のなかば頃といわれる。ドイツにおくれること約15年であるが、たちまちヨーロッパの出版の中心となった。なかでも、ヴェニスが頭角をあらわして、イタリア全体の約3分の1の印刷者がここに集中したといわれる。この書物の印刷者については、同じ上野文庫の蔵本 H. F. Brown: Venetian printing press. の資料「1469年以降ヴェニスにおける印刷者と書肆リスト」中に“Antonio de Strata(1481)”として出てくる以外詳しく知られていない。(1481)は創業の年であるから、この出版者にとって本書は最も初期の労作のひとつであったろう。この頃ヴェニスではすでにジャンソンの清新で、とくに垂直の線の流れが見事なローマン・スタイルの活字が使用されはじめるが、本書に用いられているのは、まだ古風なゴシック体である。表紙は薄く削った桎板——この頃はブナ(Buche)が多用された——を褐色のカーフでおおい、唐草風の型押しを施してある。タイトル・ページはなく(タイトル・ページの一般的な普及はずっと後のことである)、本文の活字はいまの9ポイント活字ほどの大きさ、1ペー



ジをダブル・コラムスに組んである。用紙はラグ・ペーパー、全体として保存は良好である。朱と青の彩色文字(手書き)が各頁に配されていて鮮かである。あと見返しの紙面に牡牛とバラの透しがはっきる見えるが、これはイタリア製紙業の発祥の地モンテファノ産の用紙であることを示す。

ところで、どのような経緯でこのインキュナビュラが上野文庫に架蔵されることになったのか。本書だけでなく、同目録の「宗教史」の項には17世紀までの出版物が数十点集中している。とくに多いのは16世紀末から17世紀にかけての『日本イエズス会年報』の類である。この疑問は、『上野精一文集』(1972年)が出版され、そのなかで、氏が Relacion とか、Zeytung とかの名のつくものを購入したが、「これは必ずしも耶蘇会の報告年報を読むわけではなく、単に新聞の一形態としての見本のつもりで見るのである」(p.308)と書いておられるのを拝見して氷解したように思った。つまり「ジャーナリズムの歴史」の資料だったのである。そういえば、本文庫に多くみられるマルコ・ポーロ、ハクルート、ピントなどの旅行記、航海記もこのような意味での蒐書であったろう。

ここでふれたインキュナビュラの『神学大全』も、このような古文庫蒐書の過程でたまたま入手されたのではなかったらうか。

今回の第2期上野文庫目録の刊行にあたって、上野家から拝借した資料のなかに、20数冊の手書きの蒐集ノートが含まれていた。その第1冊、〈昭和5年12月起〉としたためられたノートの冒頭に、マルコ・ポーロ『東方見聞録』（1671年）と、本書トマス・アキナス『神学大全』があい

ついでかかげられ、以下、同時期に購入されだと思われる『イエズス会年報』をはじめとする16—17世紀の宗教書の書名が数十点かきつらねられているところを見ても、上の推測は裏づけられたように思えるのである。

（経済学部 高橋俊哉）

資料紹介

Cahiers du Communisme. Comite Central du Parti Communiste Français.
Year 1924-1972 in 92 units. Paris, 1924-1972. Reprint.

本誌は、1924年11月フランス共産党中央委員会によって党の理論機関誌として創刊されたもので、創刊当時は“Cahiers du Bolchévisme”の誌名であった。本誌創刊の10ヶ月前にレーニンが死亡し、また、当時唯一の共産主義雑誌“Bulletin Communiste”が一週間前に廃刊になるなど、レーニンの思想をマルクス主義の立場から科学的に紹介する重要な時期であった。創刊当時は国内闘争やフランス共産党史に重点をおき、第二次大戦

の時期には反ファシズム・キャンペーン、1940年から1944年のドイツ占領下では地下出版で続行したが、この時の資料は現存していない。戦後は、各号特集を組み、内外の政治闘争、社会、経済、文化、哲学、科学など総合的に論文を掲載している。本誌は、共産主義やフランス現代史の研究ばかりでなく、国際政治全般にわたる研究資料として重要である。

American Federation of Labor and Congress of Industrial Organization
Pamphlets (1889-1955). 19 reels of 35mm microfilm.

この資料は、1889年からAFLとCIOが合併した1955年に至る65年間にわたって発行、配布されたパンフレット類のマイクロフィルム版である。労働組合員や労働者に対する教宣手段として重要なパンフレット類は散逸することが多いが、この資料にはアメリカの指導的な労働組合運動家

の執筆したパンフレットを収録している。65年間にわたる各時代の政治、経済政策や外交政策、社会福祉問題など鋭敏に反映しており、アメリカ労働運動史のみならず、各時代の政治、経済、社会の研究に重要な基本的資料である。

Japanese Economic Statistics. General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, Economic and Scientific Section, Research and Statistics Division. Bulletin. Nos.1-64; Sept. 1946-Dec.1951. Photoreprint. Ed. 68 vols.

Japanese Economic Statistics. Economic Stabilization Board, Japanese Govt. Bulletin. Nos.65-105; 1952-1956. Photoreprint. Ed. 111 vols.

この資料は、昭和21年から昭和31年にわたる日本の経済統計であり、写真複製版である。終戦

後、連合軍の支配下において、日本経済は混乱し、経済統計もまとまったものがなかった。この

資料は連合軍によって収集された経済各方面の統計で、各年各月毎にまとめられ、戦前戦後の経済研究資料として欠くことのできないものであると共に、連合軍の対日政策を研究する資料でもある。

さらに、独立後昭和31年までの経済統計は我が国の経済発展期の状況を知り得る資料で、敗戦より経済安定期の経済史の研究に基本的な資料といえよう。

今西博士蒐集 朝鮮史原本コレクション 天理図書館蔵 667点

マイクロフィルム 154リール

元文学部教授今西龍博士は朝鮮史学を専門とした多数の書籍を所蔵されていた。退官後、中国関係書籍 4,336 冊は本学文学部に今西文庫として利用に供されている。一方、朝鮮本については天理図書館で所蔵され、マイクロフィルムによって購入利用することができるようになった。今回購入

したのはこのマイクロフィルムによる朝鮮史本コレクションで、667点154リールという多数の資料である。附属図書館には河合文庫という朝鮮文書類と典籍類 2,160 冊があり、今回の資料と併せて朝鮮史研究の資料がさらに充実され、その利用が期待される。

Knizhnaia Letopis. Year 1907-1964. Moscow. 218 vols.

本誌は、ロシア革命前1907年より約60年間に出版されたソ連の最も基本的な出版情報であり、図書に限らず、通報、パンフレット類まで収録している。さらに、人名、地名、件名の索引を付して検索しやすいようになっている。一般に、出版目録は図書館の参考図書として使われるものであるが、この出版目録は、ロシア革命前後の時代的背

景をふまえて、図書目録による当時の政治、経済、社会の事情を知りうる重要な資料である。附属図書館では、従来より主要国の出版目録や全国書誌の収集に努力しており、英、米、独、仏のそれはすでに収集し、利用に供しているが、本誌の収集によりさらに参考資料が充実され、主要国の書誌の検索が可能となった。

Heinsius, W. : Allgemeines Bücher-Lexikon, v.1-19; 1700-1972. Reprint.

この図書目録は18世紀から19世紀にかけてのドイツの3大図書目録(Kayser, Hinrichs)の1つである。配列は図書、パンフレット、雑誌を著者及び書名の主要語のアルファベット順に配列し、著者からも書名からも索引できるようになってい

る。18世紀、19世紀は学術的にドイツが世界をリードしていた時代で、この時代に出版された図書目録は当時の学術研究の水準を示すものとして注目される参考資料である。

Joecher, C.G. : Allgemeines Gelehrtenlexikon. 4 vols., 7 suppl. 1750-1897. Reprint.

この人名辞典は最初1750年から1751年にかけて4冊本で出版され、続いて1784年から1897年にかけて補遺として7冊出版された。19世紀までの人

名辞典として網羅的であるが、特に中世の人物に重点をおいている。

附 属 図 書 館 継 続 購 入 白 書 類

書 名	所蔵最新版	編 者	発 行 所	備 考
精神薄弱者問題白書	1979	日本精神薄弱者福祉連盟	日本文化科学社	
犯罪白書	昭54	法務省法務総合研究所	大蔵省印刷局	
過疎対策の現況	//53	国土庁地方振興局過疎対策室	過疎地域問題調査会	過疎白書
環境白書	//54	環境庁	大蔵省印刷局	(旧)公害白書
海上保安白書	//54	海上保安庁	"	
警察白書	//54	警察庁	"	
消防白書	//54	消防庁	"	
わが外交の近況	//54	外務省	外務省	外交青書
地方財政白書	//54	自治省	大蔵省印刷局	
図説・日本の財政	昭53年度	大蔵省調査企画課	東洋経済新報社	財政白書
経済協力の現状と問題点	1977	通商産業省通商政策局	通商産業調査会	経済協力白書
国民の経済白書	昭53年度	平和経済計画会議	日本評論社	経済評論増刊
経済白書	//54	経済企画庁	大蔵省印刷局	
世界経済白書	//53	"	"	
国民生活白書	//54	"	"	
公正取引委員会年次報告	//54	公正取引委員会	"	独占白書
中小企業白書	//54	中小企業庁	"	
図でみる中小企業白書	昭52	"	同友館	
中小企業施策のあらまし	//54	"	中小企業調査協会	
青少年白書	//54	総理府青少年対策本部	大蔵省印刷局	
婦人白書	1978	日本婦人団体連合会	草土文化	
婦人労働の実情	昭53	労働省婦人少年局	大蔵省印刷局	
労働白書	//54	労働省	日本労働協会	
図説・労働白書	//52年度	労働省労政局(監修)	至誠堂	
労使関係白書	//54	日本生産性本部 労使協議制度常任委員会	日本生産性本部	
厚生白書	//53	厚生省	大蔵省印刷局	
科学技術白書	//54	科学技術庁	"	
コンピュータ白書	1978	日本情報処理開発協会	編者局	
原子力白書	昭53	原子力委員会	大蔵省印刷局	
防災白書	//54	国土庁	"	
建設白書	//54	建設省	"	
防衛白書	//54	防衛庁	"	
国土利用白書	//54	国土庁	"	
図説・農業白書	昭53年度	農林統計協会	編者	
農業白書附属統計表	昭53	"	"	
世界農業白書	1977	国連食糧農業機構	国際食糧農業協会	
図説・林業白書	昭53年度	林野庁(監修)	日本林業協会	
図説・漁業白書	//53	農林統計協会	編者	
運輸白書	//54	運輸省	大蔵省印刷局	
交通安全白書	//54	総理府	"	
通信白書	昭53	郵政省	"	
観光白書	//54	総理府	"	
通商白書総論・各論	1979	通商産業省	"	
図説・通商白書	"	" 通商政策局	通商産業調査会	
海外市場白書	1978/79 (昭53刊)	日本貿易振興会	編者	